

「オツカレサマデシタ」

「東北ヘルプ」の働きは、震災で亡くなったカナダ人宣教師アンドレ・ラシャペル神父の通夜式に集まった、仙台キリスト教連合の世話人たち数名が、何かできないかと相談したことがきっかけで誕生しました。



ラシャペル神父は当時、カトリックの塩釜教会の担当で、震災時は仙台におられました（行かない方がよいとのアドバイスにもかかわらず）教会に集まって来るかもしれない信徒たちを案じて、塩釜に向かう途中で召されたのでした。

原発建屋が相次いで爆発を繰り返していた中、未だ街中の多くが暗闇に包まれていた夜、かろうじて電気が戻った聖堂で通夜式は行われました。ラシャペル神父が属していた修道会のカナダ人神父が司式をされました。式文にそった型どおりの式の後、司式者の神父はラシャペル神父について日本語で簡単に紹介をされました。そうして、その最後、おもむろに神父の御遺体に向きを変えると「ラシャペル神父、オツカレサマデシタ！」と語りかけられたのです。

あの時の場面、そして、その言葉が鮮明に記憶に焼き付いています。これから途方もない恐怖の世界が始まろうとしている時に、なぜ「オツカレサマ」なのかという奇妙な違和感と、信仰者の生涯とはこういうものなのだという不思議な平安が、私を包んだからです。

神様から与えられた命を生き切った時、私たちの地上での使命は終わるのだ、と。

「東北ヘルプ」の理事として御奉仕くださった金子千嘉世先生が、天に召されました。

今号で紹介されているとおり、先生は遠く九州の地より、フクシマの被災者と共に生きるために移って来られた方です。その先に起こりうるかもしれないことを覚悟して。

理事会では、いつでも現地におられる被災者の目線から、東北ヘルプの活動について問いかけ、数々の御意見をいただきました。かなうことなら、皆の苦しみを御自分が代わりに担いたいという思いだったのでしょう。病に倒れ、それでも神の希望の言葉をテレビ電話で伝え続け、そのまま召されて行きました。お名前のおり、千もの「嘉（喜び）」を被災した世に（！）残しながら。

ラシャペル神父と金子千嘉世先生には、似たところがあります。二人とも、前に向かったまま、天へと召されたという点です。私たちも、そうありたいと心から願います。

皆様の上にクリスマスの豊かな祝福と平安を祈りつつ。

2018年 待降節（アドベント）

仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク（東北ヘルプ）代表

吉田 隆